

●片岡善仁・粕谷紗代子・瀬野恵理子・福土輝・根岸寛光・奥田誠一・篠原弘亮 キュウリ導管液に生息する細菌のフローラへのプロベナゾール剤処理における影響 Kataoka, Y., Kasuya, S., Seno, E., Fukushi, H., Negishi, H., Okuda, S., and Shinohara, H.:

# Effect of Probenazole Treatment on Bacterial Flora in Xylem Sap of Cucumber Plants

演者らはキュウリの導管液に生息している細菌のフローラを明らかにしたことから（片岡ら，2010），プロベナゾール粒剤（PBZ）がこのフローラに与える影響を調査した。温室でポット栽培したキュウリ（品種：ときわ333）の第10葉展開期に1株当たり5gのPBZを土壌混和したポットに移植した。移植21，26日後に地際部から高さ30cmの茎より採取した溢泌液を導管液とみなし，これを分離源に普通寒天培地を用いて細菌を分離した。分離5日後に細菌数を計測後，系統抽出法を用いて釣菌した菌株を脂肪酸解析（MIDI法）で類別した。無処理区とPBZ処理区ともに約 $10^3$ cfu/mlであった。無処理区では分離株133菌株が~~4~~19属に類別され，*Microbacterium* 属（分離割合33.8%），*Clavibacter* 属（21.8%），*Brevundimonas* 属（9.8%）が優占的であった。PBZ処理区では分離株150菌株が~~4~~19属に類別され，*Microbacterium* 属（28.0%），*Sphingobium* 属（18.0%），*Sphingomonas* 属（12.0%）が優占的であった。PBZ処理は導管液に生息する細菌のフローラにほとんど影響を与えなかった。

（東京農大農）